

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立長橋小学校

2025（令和7）年4月

(様式 1)

大阪市立長橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、これまで保護者や地域の理解と協力を得ながら、ともに歩む歴史の中で、人権尊重の教育を中心に据え教育活動を進めてきている。一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちの実態に向き合い取り組みを構築してきた。また本校は、外国につながりのある子どもも多く在籍する。その子どもたちが自分に自信をもち、自身のつながりに誇りをもつことをめざし、多文化共生教育にも注力してきた。「自ら学び考える子」「強くたくましい子」「仲間を大切にする子」をめざす子ども像とし、人権を尊重した教育を基盤として、学力向上と集団育成を推進し、一人ひとりの子どもを大切にした教育を推進してきている。

その積み重ねの中で、本校の子どもたちは、自ら進んで挨拶をしたり、主体的に清掃活動を行ったりと、自主性・主体性を示す子どもたちが増えてきている。学習に対する落ち着きも見られ、前向きに取り組む姿勢も窺える。校内調査の学習アンケートでは「学習内容が分かった」と肯定的に回答する子どもたちが近年増えてきており、大阪市学力経年調査児童質問紙においても、各教科の「学習が好き」と肯定的に回答する児童は、大阪市平均を上回っている。学習への意欲の高まりが十分に感じられるものとなっており、これまでの取り組みの大きな成果と言える。一方で、学習内容の定着という側面においては課題を残す。学力経年調査の結果も厳しいものがあり、本校の子どもたちの学力の定着については、これまで続いている課題と言える。

本校には、家庭環境に課題を抱え、基本的な生活習慣が身についておらず、生活面からの支援を要する家庭が散見される。遅刻・欠席数は相当数にのぼり、教員が協力しながら子どもたちの生活面に関わりつつ登校支援や学習支援を行っている。昨年度はコロナ不安の影響で欠席する子どもも多く、双方向通信を活用したオンライン授業の実施やプリント学習の取組などの支援、個別支援を進めてきた。しかしながら、遅刻や欠席の多い子どもや生活面で配慮を要する子どもには、基礎的な内容の定着が不十分となり、学習や学校生活への意欲が低下してしまう姿も見られている。基本的な生活習慣の確立に向け、「早寝、早起き、朝ご飯」などの啓発週間で子ども、保護者へ働きかけたり、日常より保護者の協力を求めたりしてきているが、今後も継続して取り組むべき課題となっている。

また、本校の子どもたちは、学習や運動への意欲、相手意識などは高いものの、自身への思い、自己肯定感が低い傾向にある。校内調査の生活アンケートでは「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する子どもは、他の項目ほど高くはない。大阪市学力経年調査児童質問紙においても、「自分にはよいところがある」の項目で、近年、大阪市平均を 10 ポイント以上下回る結果が多い。生活環境の厳しさとともに、幼少期の体験なども要因と考えるが、自分が認められる、必要とされる経験の少なさ、褒められる経験の少なさが影響しているものと考えられる。

【児童質問紙「○○の勉強は好きですか」への肯定的な回答の数値】

年度	国語		社会		算数		理科		外国語		平均値	
	本校	大阪市										
2019	67.6	68.2	58.9	62.0	75.8	73.4	74.7	77.0	64.5	73.8	68.3	70.9
2020	75.4	65.7	67.8	61.2	81.2	69.9	80.6	78.9	70.5	71.9	76.0	69.5
2021	74.2	66.6	69.8	62.8	77.1	69.2	79.4	80.0	79.3	74.7	76.0	70.7
2022	66.1	67.2	60.6	62.1	72.1	67.6	72.9	79.4	78.7	75.1	70.1	70.3
2023	67.7	66.4	67.1	63.1	73.5	67.3	60.0	78.9	66.3	71.3	66.7	69.4
2024	63.9	66.7	61.1	63.8	58.3	66.5	65.7	78.7	64.8	76.7	62.8	70.5

【各学年の標準化得点推移】

年度	小3	小4	小5	小6
2019	87.0	91.2	86.7	99.6
2020	89.8	87.9	90.9	90.7
2021	90.5	89.7	90.0	93.5
2022	91.8	91.9	88.4	89.2
2023	90.6	90.8	93.2	88.5
2024	80.6	88.1	90.3	90.4

【児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」への肯定的な回答の数値】

年度	本校	大阪市
2018	58.3	76.1
2019	57.7	72.4
2020	71.2	70.1
2021	60.1	73.9
2022	68.4	76.4
2023	77.7	78.6
2024	75.9	80.0

本校の子どもたちは明るく元気な子が多く、異学年交流における相手を思いやる優しさや態度など、誇らしい姿も多く見受けられる。その子どもたちの姿こそが本校の取組の成果である。その成果を維持しつつ、子どもたちが自分たちの夢を実現できる力を、自分の思いや考えを実現できる力を養っていく必要がある。現状の課題である自己肯定感の醸成と学力の定着・向上をめざし、自己実現できる力を育成していくものとする。

自己肯定感の醸成を進めるうえでは、子どもたちにできることを増やすとともに、できたことへの称賛、認め励ます姿勢を大切にしていきたい。

学力の定着・向上を進めるうえでは、日々の学習活動の中で、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし互いに学び合う学級集団を育むことが大切になる。また、本校が取り組んできた読書活動の充実は、継続していく。語彙力を高め、基礎学力の向上につなげていきたい。大阪市が力点を置くICT教育においても、今後さらなる充実が求められている。学習意欲の喚起を促すことも含めて、本校でも取り組んでいく必要がある。

これまで進めてきた中で成果を上げてきた「一人ひとりを大切にした教育」を今後も

継続し、本校教育活動の深化充実に努めるとともに、次代を担う子どもたちの生きる力を育むため、保護者、地域とのつながりを大切にしながら、教職員一丸となって取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内調査における「授業の内容がわかりますか」の項目について、肯定的に回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、いずれの学年も95ポイント以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に回答する割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の校内調査における「日々の授業の中でICT機器を活用している」の項目について、肯定的に回答する教員の割合を100%にする。
- ・令和7年度のゆとりの日について、週1回以上設定する。
- ・令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- ・校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 95%以上にする。

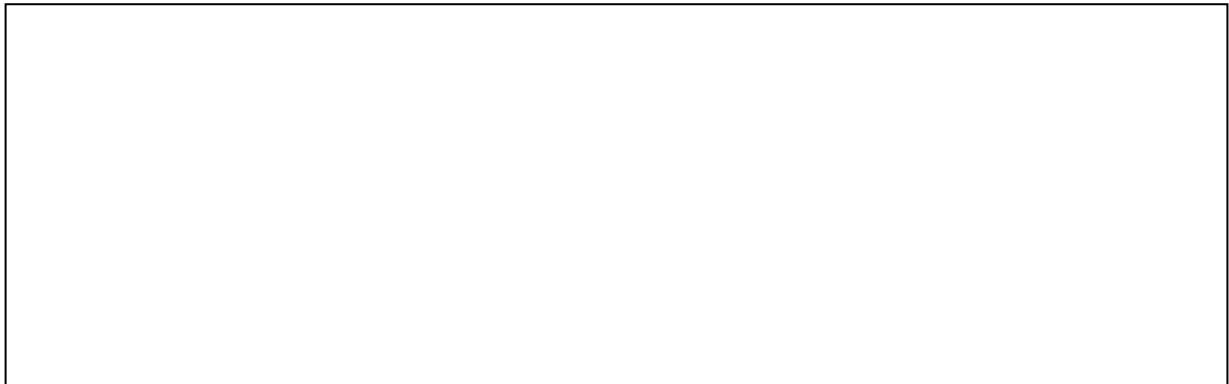
【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 75%以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、いずれの学年も 95 ポイント以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く）
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。
- ・学校閉学日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間については 2 日以上設定する。

3 本年度の自己評価結果の総括



(様式 2)

大阪市立長橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況	年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 95%以上にする。 			
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>定例ケース会議（スクリーニング会議）など、各種部会において児童の様子の交流を日常的に行う。いじめアンケートを通していじめの早期発見に努め、掌握したいじめについては、学校で組織的に対応し、原因を明らかにするとともに、いじめ解決を図ることができるようとする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例ケース会議（スクリーニング会議）など児童理解の会議を月 1 回実施する。 ・いじめアンケートを学期に 1 回実施する。 			
<p>取組内容②【基本的な方向 1、安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>登校しづらい児童に対して、家庭訪問を行い登校の支援をする。また、児童の実態に応じてオンラインを活用するなど柔軟に対応し、学習への参加を促す。児童や保護者に必要な支援を掌握するため、区役所や関係諸機関などと連携を図り、不登校児童の在籍割合を減少させる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 			

<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>生活目標、長小 3 つのパワーなどを児童に提示し指導を進めることで、児童自らが行動をよりよいものにしようとする意欲を高める。教職員が児童の認められる場面や児童が互いに認め合える場面を効果的に取り入れ、自分のよさや可能性を感じられるようとする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標の周知・掲示を月 1 回行う。 ・校内調査の「学校の決まりを守っていますか」で肯定的な回答をする児童の割合を 91% 以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>韓国・朝鮮につながりをもつ児童をはじめ、フィリピン、中国などの国や地域につながりのある児童が在籍している。遊びや歴史にふれる機会を通して、それぞれの国や民族の文化を理解し、民族のアイデンティティーを育てるとともに、国際社会を生きる素地となる力を育てる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会、報告会を実施する。 ・学習や活動の様子を伝える新聞などを学期に 1 回以上発行する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立長橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 75%以上にする。</p> <p>・小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、いずれの学年も 95 ポイント以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の中で、学級の友だちと話し合う活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする時間を持つ。話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりしたことをノートにまとめ、自分の成長を実感できるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「授業の内容がわかりますか」の項目について、肯定的に回答する割合を 85%以上にする。 ・校内調査「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各学年の学年児童全体の学習の実態を把握し、基礎・基本的な学習の定着を図る。TTT体制を生かして、児童一人ひとりに応じた指導や支援、補充学習を実践する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数チャレンジや MIM、コグトレなど基礎・基本を伸ばす学習を定期的に行う。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>低学年からの英語教育を推進し、児童の英語力を向上させる。ネイティブ・スピーカーの講師との交流を通して、生きた英語を学び、外国語に対する学習意欲を向上させる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年から英語教育を実施する。 ・校内調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。 	

取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

児童の体力・運動能力の向上に向けて、授業や休み時間に児童が運動意欲を高められる活動を実施する。さらに、各学期に、児童の体力向上に向けて体力向上週間（かけ足・なわとびなど）を設定し、がんばりカードを活用することで、目標を持って取り組ませるようにする。

指標

- ・校内調査で「運動（体を動かす遊びも）やスポーツをすることは好きですか」に肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 75%以上にする。
- ・体力的な取り組み後の校内調査の、体力づくりや運動に親しむ項目で、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立長橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く)</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80% 以上にする。</p> <p>・学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間については 2 日以上設定する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX】</p> <p>日々の授業の中で、一人一台学習者用端末とデジタル教材を効果的に活用し、学習効果の向上を図る。また、教員が I C T 等を活用した視覚聴覚支援の工夫について追求する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査「日々の授業の中で I C T 機器を活用している」の項目について、肯定的に答える教員の割合を 100% にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>夏季休業中等の学校閉庁日の設定や、個々の時間外勤務の減少など、教職員が働き方について意識ができるような組織づくりをする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノ一残業デーを月 4 日以上設定する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 8、生涯学習の支援】</p> <p>夢ひろば（学校図書館）の読書環境を充実させ、児童が自ら読書に親しむことをめざす。また、地域のボランティアの方や学校司書の方による読み聞かせを定期的に実施して、児童が本の世界の面白さを感じ、進んで本を読めるようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85% 以上にする。 ・区の図書館との連携により読書活動の環境づくりを推進する。 ・学級や夢ひろば（学校図書館）で、読み聞かせを定期的に実施する。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 9、家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>学校や地域を拠点とした学習機会の充実、登下校時の見守り活動、読書活動支援、など、地域による学校支援の取組を推進する。また、学校・地域・家庭が連携し、</p>	

学校・地域・保護者の人権意識や教育力を向上させる。

指標

・校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を100%にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点